助産師会便り
50周年記念行事特集号
朗読劇 ハッピーバースデー
2010・4・29

発行 （社）群馬県助産師会
〒373-0018 群馬県太田市丸山町 250-7
TEL・FAX 0276-37-5198

設立 50 周年記念行事に寄せて

会長 鈴木せい子

去る 2 月 13 日、発足 50 周年を記念して記念行事を行いました。

今からさかのぼること 100年前、助産師は産婆と呼ばれていた時代が有りました。常に母と子の幸せを願いながら戦前・戦中・戦後と激動の中を駆け抜けてまいりました。いのちに寄り添い、その叡智と確かな技術、献身的な働きに救われた人々ははかり知れないといわれています。そうした、大先輩たちの専門職業人としての在り様は、世代を超え、今の私たちに脈々と引き継がれています。時代の流れと共に、社会も大きな変貌を遂げ、いまや世界で類を見ないほどの少子・高齢化時代を迎えました。母と子を取り巻く社会環境も大きく変化し、育児不安や家族の機能不全とされる虐待等新たな問題も生じてきました。助産師の多くは病院や診療所に勤務していますが、市町村の母子保健事業や開業して地域で活動している助産師もいます。少ないマンパワーを効果的に生かし、組織として行政の母子保健事業や教育現場における「いのちの大切さを伝える出前講座」地域母子支援センターの電話相談事業等県民の保健・福祉・医療・教育の向上に向けて積極的に取り組んでいます。

このたびそうした日頃の地道な活動が評価され、全国規模のビッグな賞を二つ受賞しました。一つは第一回「こころを育む総合フォーラム」全国大賞です。本会の「いのちの大切さ出前講座」の活動が受賞対象となりました。引き続き昨年の秋、第 61 回「保健文化賞」を受賞しました。公衆衛生の分野で活躍している個人や団体を顕彰していますが、今回の受賞者は、ホームレス支援、自殺防止、虐待などの社会の今日的課題の取り組みをしている方々や団体でした。昨年 10 月 28 日、贈呈式の翌日、皇居にて天皇・皇后両陛下への拝謁の栄に浴しました。61 年間の歴史のなかで助産師会としての受賞は本会が初めての快挙でした。厚生労働省が策定した 21 世紀の母子保健ビジョン「健やか親子 21」を受け、群馬県でも「健やか親子21 in ぐんま県民運動」を策定し、今年度最終年度を迎えました。県助産師会の課題はすべての項目において目標値を上回り大きな成果を得たことが受賞のポイントとなりました。そこで祝賀会のかわりに受賞を記念していただいた副賞金を基に、社会貢献のために役立つ記念行事を行なうことになりました。そこで朗読劇「ハッピーバースデー」をリサーチでき開催することになったのです。

記念行事は、約 1,500人の方々にご参集いただき成功裏のうちに無事終了することができました。朗読劇の原作の持つ力と人気声優さんによるステージということも加わり、惜しげもなく副賞金を社会還元する助産師会の心意気は多くの方々から支持されたのです。じつに幅広い年齢層の方々にお越しいただけました。日頃からお世話になっている 120人のご招待の方々もお祝いにかけつけて下さいました。一番うれしかったことは、一般の参加者は勿論のこと、実行委員はじめ運営に携わって下さったスタッフ・ボランティア、会員みんなの顔が、大きなことを成し遂げた喜びと充実感、達成感で実に生きいきと輝いていたということです。最後になりますが、素晴らしいステージを演出してくださった、オフィスデュオ、スタッフの皆さんに心より感謝申し上げます。特に今回の記念行事をコーディネートしてくださった tvk コミュニケーションズの馬場社長さんはヨチヨチ歩きの私たちをきめ細やかに導いてくださいました。

実行委員はじめ会員のみなさま、関係者のみなさまに本紙面にてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

今年の秋には（社）日本助産師会の関東甲信越静地区研修会を群馬県支部が担当し伊香保で開催します。また新公益法人改革による、法人化も本会の行方を決める大きな問題です。今回発揮した一人一人の力をさらにパワーアップしてがんばりましょう！今後も、会員のみなさま一人一人のお力添をいただきたくよろしくお願い申し上げます。

▲ホール内で空席を知らせるスタッフ
素晴らしいワークで自由席を余す事無く満席にできました。

県助産師会に新たな歴史を刻んで
ドキュメント・ザ・ハッピーバースデー

会長　鈴木せい子

✽ 大成功！　1,500 人の動員数に沸く！

今回の記念行事のために新しく用意した名刺入れには150人分のポケットがいっぱいになっています。開催を決定してから約 6 ヶ月間、ご挨拶やお願いに出向いた方々からいただいた名刺です。悲喜こもごもの思いと軌跡がビッシリと詰まっています。

記念事業の趣旨を説明しご協力のお願いをしました。そんな心意気に賛同して下さった行政やマスコミ・関係各方面の方々から物心両面の圧倒的な支持を受けることができました。社会的に意義ある行事であることを評価して下さったからだと思います。そうした広報活動は単に記念イベントのためだけでなく、助産師や助産師会の存在感のアピールにつながりました。このことは本会に、あらゆる面ではかり知れない財産をもたらしたことを意味しています。ここに県助産師会に新たな歴史を刻み込むことができました。

✽ 不安要素を抱えながらのスタート

10 月開催決定後、直ちに理事と書記局 22 名からなる実行委員会を発足しました。さらに実行委員から互選された各部門のリーダー 10 人が核となりリーダー会議を何回も重ねました。チケットが用意できたのは 11 月上旬。取り組みを開始したものの、何もかもが未知の分野だけに不安だらけでした。

一番の懸念はなんといっても参加動員数でした。当時、新型インフルエンザが猛威をふるい、学校の行事も中止されるなど、大勢が集まるイベントに参加規制がかかっていました。「無料でもなかなか人集めが難しいのに、2,500 円の有料チケットでは集まるはずがない！」お願いする先々の冷ややかな反応でした。リーダーの私ですらこうしたことの繰り返しでしたから、みんなも苦戦していました。チケットは、最初の 3 週間は殆ど売れませんでした。1,000 席がどの程度うまるのかしら…。不安要素を抱えながらのスタートでした。

✽ “百聞は一見にしかず”
横浜公演で 心のエンジンに火がつく

当初、各実行委員たちの取り組む姿勢はまちまちで温度差がかなり有りました。私は“言いだしっぺ”として火傷をするくらいヒートアップ温度。そうかと思えば“水”かもしくは“ぬるま湯”程度の実行委員もいました。何とか格差を無くし、同じ思いで取り組んで行きたいと考えました。

そこで、“百聞は一見にしかず”。昨年 11 月、みんなで横浜まで朗読劇の観劇に出向きました。活躍中のプロの豪華声優陣たちによる迫力ある演技に心揺り動かされ、主催者としてかかわれる喜びと幸せに心躍り、身体中の震えを抑えきれないほどの感動を味わった 2 時間でした。一人でも多くの方々と感動を分かちあいたいとみな意を強くし、心のエンジンに火がつき帰路につきました。「一席でもうめたい」から「一人でも多くの方にメッセージを受取って欲しい」に意識が変わり、みんなで何とか成功させたい！と確認し合うことができたのです。

いよいよ活動開始！ 15 万枚印刷したチラシを抱え、みんなで手分けして人が集まるところ約 45 箇所にビラ配りをしたり、ポスター貼りもしました。出演者を代表して声優の野村道子さんをお招きしての記者会見も行い、テレビ・ラジオ・新聞等マスコミも大きく取り上げてくださいました。教育委員会の後押しもあり、学校を通じて小中学校児童・生徒すべてに配布できました。みんなの精力的な行動が効を奏し、日増しに認知度が高くなるにつれ、周りの目が変わってきました。少しずつ手ごたえを感じられるようになってきたのです。

✽ うれしい悲鳴 2 ヶ月前にチケット ソールドアウト！

そうした私たちの本気の成果があらわれたのは、広報活動を本格的に開始してから約 1 ヶ月後でした。公演の 2 ヶ月前には午後・夜の部 2 公演の 1,000 席がほぼ満席となり、急遽、同日の午前中に追加公演を決定したのです。予想もしなかった反響の大きさにうれしい悲鳴を通り越し、対応に追われることにもなりました。年末年始は返上してチケット販売促進に明け暮れすることを覚悟していただけに正直ほっとしました。大口がゲットできたことも大きなことでした。ありがたいことに伊勢崎の敬愛看護学院の学生さんが「家族論」授業の一環として一年生全員参加、また高崎助産師学院の学生さんも国家試験直前でありながら全員参加してくださったのです。大胡第二保育園の阿久沢園長先生も保育園関係者に 150 枚近く販売してくださいました。もし売れなかったら…を考え、保健文化賞のスポンサーである第一生命に協力依頼し、社を挙げてのバックアップ体制を約束、夜の部 100 人のチケット購入を予約してくださっていたのです。さらに私の講演がご縁で某団体から 100 名購入予約もいただいていました。ところが急にチケットが完売となり 2 団体には予約分を手配できず「ごめんなさい」と謝らなければならない事態となってしまいました。

うれしい悲鳴はそれだけでは有りませんでした。運営資金が予想をはるかに超え集まったのです！みんなで協賛金やスポンサー集めに駆けずり回ってくださいました。運営資金は約 600 万円かかりましたが、趣旨に賛同してくださるみなさんが「助産師会がんばれ！」と協賛金 3 万円つきのエールを気持ちよく贈ってくださいました。

✽ 助産師の底力を発揮　一人一人の心と力を合わせて

一流の声優陣による「朗読劇」の内容の濃さ！参加者からの反響！企画運営にあたった本会会員が発揮した底力！ご協力とご支援いただいた方々のあたたかさ！どれ一つとっても完璧に近いワークでした。

当日は 80 人の実行委員が運営に当たりましたが、大学生や一般のボランティアの方々からも協力が得られました。定刻よりかなり早くからご来場いただいた大勢の方々に対し、開場までの整然とした場外整備。場内で最も難しいのは自由席のうめ方でしたが、一席でも余す事無く、親切で粛々とした手際よい誘導に「実に見事！とても素人集団とは思えない。大いに学ぶところがありました」と関係者を唸らせました。運営にあたるスタッフはみな経験の無いことばかりで必死でしたが、それぞれの持ち場をしっかりと守りました。午前・昼・夜の部 3 回とも

各500席、合わせて1,500席すべて満席でした。心配していた立ち見の方も無くほっと胸をなでおろしました。実は白い妖精の飛来により、予定していたうちの200人はお越しになれず85％の来場率だったのです。90％になった場合、立ち見がかなり出てしまう･･･。何とか85％で止まって欲しいと内心願っていました。天をも味方につけ、こわいほどすべて予測どおりの展開でした。

当日は（社）日本助産師会の加藤会長さんはじめ、他県からも助産師の仲間もお祝いにかけつけてくださいました。ホワイエでは、助産師会の地域における活動を紹介する展示コーナーを設け、パネル写真の他、昔の家庭分娩で使用していた器具や道具も展示しました。

✻ 本番

本番間近になり、当日の運営マニュアルに添った行動計画が示されると、みんなに緊張感が走りました。当日を迎えるまでは準備に追われ、事務所は戦争さながら。実行委員たちは、前日も会場で軍手をしてホワイエのパネル展示の準備に追われ、夜遅くまで力作業を行いました。実行委員たちの「やるっきゃ無い！」の意気込みで、てきぱきとした姿を目の当たりにした時、すでに「成功！」を確信しました。当日も朝８時集合、夜は１０時解散と長時間みんなよくがんばってくれました。後片付けが終わったのは夜の10時近くになっていました。最後に出演者・関係者たちと一緒に撮った集合写真は大きなことを成し遂げた喜びに満ちあふれていました。みんなのはじける最高の笑顔がすべてを語っているように思います。成功の鍵は用意周到な準備のもと、一人一人の実行委員たちや運営委員、ボランティアたち、運営にかかわってくださったすべての方々の心と力を合わせた働きにかかっていたといっても過言では無いと思います。

✻ 人と人とのつながりの大切さ

130人足らずの小さな団体がこれだけのことがどうしてできたんだろうか？誰しも持つ疑問だと思います。前記したとおり、実行委員たち一人一人の働きが大きな要素であったことはゆるぎない事実です。でもそれだけではこうした結果を得ることができなかったと思っています。当日の運営は分厚い本に例えるなら最後の１ページです。でも最後の１ページを無事完結させるのはそれまでの用意周到な準備が必要不可欠です。「助産師会がなにやら大きな記念行事をするらしい！」長年助産師会と何らかのかかわりを持ち、お互いに心を通い合わせ共に歩んできた関係者たちが、どう反応してくださるのか気がかりでした。まず45団体から後援をいただくことからスタートしました。ご後援をいただくにあたって、わずか半月間で面識のない団体から了解をいただくことができたのも、県の心強いサポートのおかげです。虐待という今日的社会問題であることから、県の子育て支援課が窓口になっていただくことになりました。

運営資金集めにも県の関係者に多くのご協力をいただきました。日精看群馬県支部からは、「看護の日だけだけど、長いお付き合いだからね」と20万円を気前良くポンと出してくださいました。それだけでなくうれしいことに役員さんの分としてたくさんのチケットも購入してくださったのです。ありがたいことに３人の会員、太田支部の岩崎産婦人科、吾妻支部青木うなぎや、秋山医院から大口10万円の寄付もいただきました。こうして助産師会と喜びを共有できる方々からの後押しで何とか当日を迎えることができたのです。多くの皆さんの支えがこうした結果をもたらしたのだと思っています。

✻ 私はといえば･･･

終了後、かつて経験したことが無いほどの不思議な感覚に襲われました。「お疲れ様！」と言う言葉がピット来ないほど疲れを感じていなかったのです。というより疲れていないと錯覚するほど身体中の70兆の細胞は酸素と栄養を使い果たしていたのかもしれません。日が過ぎるにつれてだんだんと疲れが身体中に襲いかかってきました。本当は疲れていたんだ！そう身体が反応し出すのに1週間要しました。

実行委員長も取り組み始めて中盤戦３ヵ月後には電話中に意識を失うほど心身共に疲労困憊で極限に達していました。私も悪夢にうなされ、夜中に目が覚めることを何回も繰り返しました。チケット完売後も息つく暇も無く、次から次へと課題が生じ、開催を決めてからの約半年間は、深夜まで雑務に追われる日が続きました。でも、気持ちが落ち込むことはありませんでした。むしろ大変になればなるほど、助産師会が社会貢献できる団体として認知していただける喜びと、素晴らしいステージを主催できる幸せのほうがはるかに大きかったからです。

「ハッピーバースデー」がもたらしてくれた喜びと幸せは私にとって永遠の輝きになると思います。参加者からいただいた感想文に目を通しながら、本当にやってよかったと心から思いました。

▲終了後　出演者たちと写真撮影　みんなの笑顔が素敵！お疲れ様でし

「怒涛のように過ぎた２月13日…」

実行委員長　関口　雅美

５ヶ月間の集大成となるビッグイベントが幕を開ける当日の朝、私と真下さんは「前橋サンホテル」の一室でうろたえていました…。

「あ゛～っ！寝てしまった～！！」司会進行の段取りを打合せするはずが、着の身着のまま爆睡していた二人…。前日の実行委員総出の肉体労働（!?）とステージでのリハーサルに、体は正直に反応したわけです。うろたえても仕方がない！しっかり朝食を食べて、勝負メイクをして、不安を払拭するように外へ出た時、凛とした冷たい空気が私にピシッ！と“喝”をいれてくれました。「いよいよ始まる…」会場入りしたとたん、実行委員・運営委員はまるで何かの勢いに後押しされるように“ザーッ”と動き始めました。私は、その中に身を置いている自分にドキドキしていました。それは、出前講座でも感じる心地よい緊張感に似ていました。

けれど、ある意味舞い上がっていた私は、ゲネプロ開演直前のステージ袖で「影アナ」の口火を切る真下さんが緊張の面持ちで台本を復唱しているのに、ホワイエの様子が見たくて無情にも真下さん一人残して立ち去ろうとしたのです。その時、「え～！行っちゃうの～？（;;）」といった真下さんの言葉が今でも忘れられない…。何てことを…。地に足がついていなかったことに気付いて仕切り直し！そこからは瞬く間の一日…。助産師会と声優陣のエネルギーが炸裂し、ステージのみならず会場の内外全体で観客を魅了した一日でした。

思えばこの日まで、会長はじめ実行委員の皆さんといろんなところへ出向き、多くの方々との出会いがありました。社団法人県助産師会の看板をしょって、いち個人ではお会いすることのない方々のもとへ出向きながら、会長が熱く事業説明する姿を傍らで見てきました。ただ一緒にいるだけでいいのだろうか…。名ばかりの実行委員長で中身が伴っていない自分に、ただ無力さを感じるそんな時期があったのです。でも、それを払拭できたのは、11月14日関内ホールでの朗読劇「ハッピーバースデー」を全身で感じ取った、まさにその時。１冊の書籍に声優の方々の息が吹き込まれた時、その書籍の持つメッセージはとてつもない大きな力となって観客の心を揺り動かす。「この感動を広く県民の方々に伝えたい…。今、私たちが動かなければ…」それは、実行委員長としてやるべきことが見えた瞬間でした。

今、記念事業を終えて感じることは、“つながり”の大切さです。節目節目で助産師会を支えて下さった行政の方々が、まるで孫の成長を喜ぶかのように駆けつけて下さいました。後援団体、協賛、スポンサー、そして鈴木会長の情熱と趣旨に賛同いただき強力なバックアップをしていただいた方々がいました。その“つながり”が、これからの助産師会にとって大きな財産となることは言うまでもありません。そしてそのつながっている糸を大切に大切に紡いでいくことがこれからの私たちの役目。それを生かすべく、次は伊香保での関東甲信越静地区研修会です。「寄り添おう。すべてのいのちに！～助産師の原点を見つめ直して～」助産師の底力を発揮する場がまたやってくる…。

▲ラジオ高崎のスタジオで生放送
野村道子さんと実行委員長の関口さん

㈱tvkコミュニケーションズ　馬場　洋一

―『ハッピーバースデー』の朗読劇を群馬でやっていただけますか。

鈴木会長の「ホテルで美味しい食事をいただくより、記念事業をやりたい」とおっしゃるこの電話がプロジェクトの始まりでした。

「雪は大丈夫かな…」。周到な準備をしても不安は常につきまといます。前日、スタッフはタイヤチェーンを買い込み、機材車に乗り込みました。

本番前夜、仕込みも終え、声優さんも全員群馬入りしてひと安心。助産師会のお心遣いで全員頑張りモード全開、すばらしいステージを展開してくれました。

私が最も感動したのは助産師会スタッフの皆さんの周到な準備に裏打ちされた無駄のない、さりげない動きでした。温かい気持ちで運営にあたられ、観客の誘導はスムーズで完璧でした。この「縁の下の力持ち」の仕事が公演の成否の鍵なのです。

おかげさまで初の県外公演を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

オフィスディオ　野村　道子

ハッピーバースデーの出演者にとっては初めての県外公演。日帰りの筈が前乗りに変更。遠足気分の賑やかな道中となりました。

新人にとって大ベテランとの交流はスキルを高めます。朗読劇上演にはホールのキャパ500席位が理想的であり、今回は大ホールとは違った密度の濃い内容をお伝え出来たと思います。

お客様の反応も予想以上であり、皆様の評価は確実に私達の演技力をアップさせてくれます。

今回の群馬での三回公演を全力投球で終えることが出来ました。

迎えてくださった助産師会の皆様の熱意とお心遣いに心から感謝致します。ありがとうございました。でも疲れたァ。足はパンパン！帰りはブーツのジッパーが足首の上で止まったまま東京に着きました。

「ハッピーバースデー」にこめられたメッセージ　　数々の名場面

本朗読劇は、学校の課題図書にもなり150万人の感動を呼んだ「ハッピーバースデー」（青木和雄著　金の星社）が原作です。テーマは家族の機能が失われている今日、「家族とは」への問い直しです。

母親から「うまなければよかった」と精神的虐待を受けショックから声を失ってしまう少女。さらに「声だけでなく姿も消えれば！」と追い討ちをかけられ、だんだん心が壊れ追い詰められていきます。やがて少女は周囲のあたたかい触れ合いの中でこころ癒され回復し、家族の絆を取り戻し再生を図ります。母親がなぜ娘を愛せないのか、そのなぞが次第にひも解かれ、やがて虐待の連鎖が潜んでいたことも明らかになってきます。

さらに女の子の“生きる力”のたくましさに多くの方々が勇気をもらいます。「ハッピーバースデー」にこめられたメッセージが、「生まれてくるすべての子が幸せになって欲しい」と願う助産師の思いと一致したことから公演への取り組みを決定しました。

おじいちゃん役の内海賢二さん▶
涙を流し感情移入しながらの熱演でした。さすがプロ中のプロ。しびれました。

「ハッピーバースデー」原作者からのメッセージ

吉富　多美

人は人と関わっていくつもの殻を破り、成長していくように思います。「じいちゃんの畑」のようにぐるぐると互いの存在を生かしあってこそ、豊かな実りとなるのでしょう。朗読劇は「じいちゃんの畑」そのものです。ステージ上に、声優さんを始めとして多くの方々が心の種を蒔いてくださいました。あすかが生きる力を育んだその畑から、希望の苗をお持ち帰りいただき、大切に育てていただければ幸いです。

▲声を失ったあすかが真赤な夕焼けの中
声を取り戻す感動的なシーン

▲あすかの誕生日を祝して、みんなでハッピーバースデーを歌いました。

▲終了後、声優さんたちが送り出しをして下さいました。

参加者の声より

● 朗読劇で声だけの表現だったのに、その時や場、情景が思い浮かび、ハッピーバースデーという世界に引き込まれました。改めて声の力の強さを知ると共に、出演者の皆さんのプロ根性を見れたと思います。とても感動したと共に、自分も夢にむかって妥協せず、せいいっぱいガンバロウと思います。　２０代男性　大学生

● 素晴らしい朗読劇ありがとうございました。まずは声優さんたちの演技力に驚かされました。素晴らしい表現力、生で拝見するのが初めてだったので、鳥肌が立ちました。内容も本当に感動するものでした。４児の母として、保育士としていろいろな想いが重なり、涙が止まりませんでした。　４０代女性　保育園関係者

昼の部　朗読劇をよりお楽しみいただくために
豪華顔ぶれによるミニトークショー

県助産師会会長	鈴木せい子
原作者	吉富　多美先生
プロデューサー兼　声優	野村　道子さん
コーディネーター	関口　雅美

司会者
真下由利子

私は「ミニトークショー」コーディネーターという大役を任されることになりました。白羽の矢か黒羽の矢かわかりませんが、清水の舞台から飛び降りる覚悟でお受けしました。

限られた15分という時間の中で、それぞれが一人で講演されるような弁の立つ方々をコーディネートできるのだろうか…という不安を抱えつついよいよ本番。先ず導入にお産のスライドショーを上映しました。6分のモノクロの静止画のスライドショーですが、最初に真っ暗の画面に胎児心音が、次に白い画面に産声が思いっきりホール内に響き渡りました。ついで、ＢＧＭはビバルディの四季から「冬」凍てついた地表から、新たないのちがうまれる様子をオズボーンが力強くうたいあげていました。導入に効果的な演出だったと思います。続いてまず会長に口火を切ってもらいました。「公益法人としての再建を果たし、助産師ならではの“いのちの教育”をはじめとする3つの公益事業が評価され受賞。その副賞金で県民の皆様に還元できるようなことを」その会長の語りは、ステージで不安を抱えたままの私を“日常の空間”に戻してくれました。何故なら、今日まで会長と常に行動を共にし、その思いを一番傍で感じてきたのですから…。そこからは、私自身も聴衆の一人としてトークに耳を傾けていたのが実際のところです。野村道子さんは優しいチャーミングな笑顔で、本を一気に読んだ時すでに役のキャスティングが頭の中に出来上がっていたこと、子育てと仕事の両立を実践してきた立場として母しずよさんに共感できる部分もあることなど、仕事と母親の両面からの立場でお話をしていただきました。吉富先生には、スクールカウンセラーとして関わった親子の「虐待を受けた子ども」と「母親自身の中にある“傷ついた子どもの自分”」という二つの問題を併せ持つケースを通して、お互いの存在の大切さをあらためて確かめるきっかけになる本が書けないだろうか…ということで「ハッピーバースデー」が執筆されたこと。そして、午前のゲネプロを観て「この本を書いてくれてありがとうございます…」と目を真っ赤にして感動を伝えて下さった方のエピソードなどお話しいただきました。偶然。そして必然が三者の熱い思いを今日ここに結実させた記念すべき日。トークショーは、本公演を100倍楽しむ方法として皆様にお受け取りいただけた…でしょうか…!?

文責　関口　雅美

野村　道子さん

参加者の声より

- 始めの映像から涙が出ました。自分でもわからない涙でした。次の涙は鈴木先生のお話になった時でした。ただ、自然に涙が出ました。何の涙かわかりません。私ももう少しで６０歳になろうとしております。この頃はあまり涙が出なくなりました。こんな涙は久々です。私も４人子どもに恵まれました。いつか子どもたちにもかわいい子どもが授かり、普通の家庭が持てたら親としてこの上ない喜びです。また、今回の朗読劇の質の高さに驚きました。素晴らしい経験でした。こういう機会を与えてくださった助産師会の皆さん、本当にありがとうございました。

５０代女性　幼稚園関係者

- 公演前のＤＶＤで最初の心音と赤ちゃんの泣き声、ずっと忘れていた気がします。ありがとうございました。このような素晴らしい公演を開催してくださり助産師会に感謝です。

40代　保健師

短い時間でしたが
濃い内容でした▶

記念式典によせて　120 人のご招待者をお迎えして

朗読劇の夜公演に先立ち、記念式典を行いました。ご来賓をはじめ 120 人ほど本会が日頃からお世話になっている方々をご招待させていただきました。

まず主催者を代表して鈴木会長が挨拶をし、後半はその日のために作成したＤＶＤ「産婆～助産婦～助産師へ」を上映しました。映像には、昔の産婆さんが使用していた往診鞄や金色の大きなのう盆が映し出されていました。その鞄はこのたび叙勲が決まった吾妻の青木先生のものをおかりしました。

下城健康福祉部長

福島県教育長

鈴木会長

続いて来賓 県健康福祉部部長　下城茂雄様と県教育委員会　教育長福島金夫様からお祝辞を頂戴いたしました。部長のお祝辞は感動ものでした。“あんちょこ”ができないステージ上で、「助産師相互の親睦と職業的地位の向上を図ると共に、専門的学術の研究につとめ、併せて母子保健に関する知識の普及並びに家族保健及び･･･」ウ～ンどこかで聞き覚えが有るような･･･。そうだ！これは私たちの定款の目的の条項だ！それにしても担当課員が用意してくださった文章を一生懸命諳んじてる様子に、感心してしまいました。教育長さんは宇宙から家族までたどりつく実に含蓄のあるお祝辞でした。前橋市長・こころを育む総合フォーラム座長山折様、パナソニック教育財団、第一生命社長、神奈川県助産師会からの祝電もご披露させていただきました。その他にも日本助産師会、千葉県習志野助産師会、福島県須賀川助産師会・日本助産師会新潟県支部や他にも多くの方々からお祝いをいただきました。

群馬県知事メッセージ

群馬県知事　大沢　正明

社団法人群馬県助産師会におかれましては、設立５０周年を迎えられ、誠におめでとうございます。また、このたび日頃の活動が全国的に認められ、２つの大きな賞に輝かれましたことに重ねてお祝いを申し上げます。

貴会の活動には、行政との協働による母子保健事業、電話相談による子育て支援のほか、生命の誕生に立ち会う助産師ならではの「いのちの大切さを伝える出前講座」があります。この講座は多くの幼児期、学童期、思春期の子どもたちの健やかな心の成長を促すとともに、保護者も含め、家族の絆づくりや、いのちに対する意識の啓蒙を図るものであり、助産師活動のモデルとも言うべきこのような取り組みに対し、心から敬意を表します。

本日、貴会の企画運営による朗読劇「ハッピーバースデー」がめでたく上演の日を迎えられましたが、その題材は児童虐待をテーマとした親子・家族の再生物語です。県としても、児童虐待の根絶に向け、関係機関と連携して取り組みを進めておりますが、本公演が群馬県内で行われることにより、児童虐待にさらに多くの方々が関心を寄せ、虐待防止の輪が広がっていくことを切に願ってやみません。社団法人群馬県助産師会の今後ますますの御発展と、公演の御盛会をお祈りいたします

参加者の声より

●「変わる為に人は学ぶんだよ」という言葉にぐっときました。群馬県助産師会の企画のすばらしさ。本当にありがとうございました。また、豪華声優を迎え、企画していただけることを祈っています。お疲れ様でした。

２０代　保健師

●とかく世の中正しいことが「まじめ」などと言われ、冷やかされるような時代となり、憂いていました。このような活動を地道にされている皆さまに感謝します。迷っていたことの答えを再確認することができました。素晴らしい朗読劇の開催にあたり、御尽力をいただいた助産師会の皆さま、このような会を群馬県で開いてくださり本当にありがとうございました。

４０代女性　保育園・幼稚園

●群馬県助産師会の皆様のあつい思い、原作者・声優の方々のあつい思いがひとつになりとても素晴らしい感動をいただきました。明日からの生きる力となりました。また皆で全員が協力している姿に感動しました。

５０代女性　助産師

●ＤＶＤを見て活動の歴史がコンパクトにまとめてあって大変良かったが、それにもましてバックミュージックがとても素晴らしかった。歌詞も声も。５０年の長きにわたる地道な活動―いやすばらしい「命の大切さ出前講座」の大切さが認められて、本当にうれしい限りです。

６０代　男性

実行委員からの感想

● 私は実行委員として行事に参加するのは初めてでした。実行委員の方々の綿密かつ確実な準備、アイデア、行動力そして結束力。委員会に出席する度、驚きました。自分の役割は再教育講習や吉富先生の接待がメインでしたが、当日は想定外な事や不手際もあり、自分の準備の甘さに対して申し訳なく思いました。しかし準備も記念講演の内容も大変貴重な経験でした。若い世代の会員さんもどんどん理事会や行事に関わって頂けたらと思います。　久保田未知留

● 雪にも負けずたくさんの方々に足を運んでいただき、満員御礼、大好評だった朗読劇。丁寧な受け答え、言葉使い、さりげない心配り。忙しい所にいつの間にか手伝いに入るそつのない動き。会場では、まるでプロの様に合図で席に案内している。どこを見ても助産師ってスゴイ！　企画運営して下さった会長はじめ実行委員の方々、協力して下さった会員及びボランティアの方々に感謝、感謝です。　須藤美佐代

● 悪天候の中、たくさんの人にご来場いただき、大成功出来た事は本当に素晴らしい事だと思います。それは会長をはじめ実行委員長の関口さんや実行委員のひとりひとりの責任感と努力の賜物と思います。駐車場整理の方にも、お弁当を差し入れして来賓者の駐車場をしっかり確保するなど細やかな配慮も見られました。来場者からも、朗読劇も素晴らしかったけど助産師会の凄さを実感しましたとの声も聞かれました。　堀口久美子

● 楽屋係なるもの初めての経験であった。真っ暗で寒い中、音と光を遮断する環境を整え声優さんが最高の演出ができるように、足元をペンライトで照らし安全性に努めた。各係共リーダーがリーダーシップを十分発揮でき連絡調整が上手くできた結果だと思う。助産師会の知恵と力の結実だと感じた。最も大きいのは会長の前進あるのみの精神だと言っても過言ではないと思った。小雪混じりの寒い日で、立見客がなくほっとした次第である。万歳！　清水　春子

● 関係者の皆様に、運営資金集めのために協賛金やスポンサー依頼をお願いしましたところ多くの皆様から、快くご協力を頂き当初予定していた２倍近くの運営資金が集まりました。劇には来賓や100人以上の招待者の方々がお祝いに駆けつけてくださいました。これも日頃から県助産師会の活動を温かく見守ってくださっている県や市町村、学校関係の方々とのよりよきパートナーシップのあらわれと受け止めています。地道に活動している会員一人一人の努力の賜物だとありがたく思っています。会員の皆様に感謝です。　山本　静江

● 朗読劇、大盛況のうちに終了でき会員全員で喜びを分かち合っています。 当日朝から雨そして雪の空模様でしたが、出足はすこぶる好調でした。全席自由席ということもあり、３回の公演ごとに開場２時間前より多くの方々が押しかけてきました。私達「会場外整備係」は、待ち時間を混乱しないように、プラカードで最終列を示したり、開場前には、整理券で順番を表示するなどの工夫をしました。スタッフは、来場の皆様に一人一人感謝をこめて挨拶を行い、ボランティアスタッフ達とサインを交わし合いながらスムーズな運営ができました。 そして最終時、朗読劇演出者・関係者・運営にかかわった助産師会員で《心よりの笑顔で》写真を撮り［一致団結］を手にしました。　一場　文子

● 今回の記念行事は、助産師会を社会にアピール出来る貴重な機会となりました。企画から実施までの半年間で、ここまで準備ができ、大成功だったことはアンケートやお越しいただいた方々の反応で実感できました。一つの目的に向かって成し遂げる団体としての結束力が高まりました。各地区支部の一人ひとりの会員が関わってくれたとき、大きな成果となることを実感しました。次は関東甲信越静地区研修会に向けて再び皆さんの力を結集させましょう！！　真下由利子

● 私は主に昼の部の託児の担当でした。預かったお子さんは12人と少人数ではありましたが、普段小さいお子さんがいるお母様は、なかなか預けて出かけられないので、今回託児を行ったことはそういった方の支援としてもよかったと感じました。チケット販売から当日の運営まで、主催者側として動くのは初めての経験でした。大変でしたが、改めて助産師会の団結力とパワーを感じました。　生方　尚絵

● こんなに大きなことを素人が企画・運営できるのだろうか…というのが当初の正直な気持ちでした。会議を繰り返すにつれひとつずつ前に前に進んで行き、皆が想いをひとつにすることの力の大きさを感じました。今回のイベントで、先輩方の熱意やパワーに感動しました。子連れで、皆さんに温かいお気持ちや声かけをいただき感謝しています。イベント当日は、７ヶ月８キロの子を一日抱っこしながらで、翌日は全身筋肉痛になったこともよい思い出です。　長谷川知子

▲会場前に長蛇の列にも整然と対応

● 今回のイベントには助産師会の結集が凄いのに驚きました。場外を市場さんと担当しました。ボランティアのかたがたが気持ちよく行動してくださりました。おかげさまで3公演が無事終了することができました。準備には皆さんが念入りに繰り返しできたのが、結果に結びついたと思いました。

黒岩　栄子

● 会場ホール係のリーダーとして朗読劇当日を迎えました。ご招待のお客様や来賓の方、託児利用の方と一般のお客様の席を割り振り、混乱なく誘導できるのか不安でしたが、担当の会員とボランティアの方々のお陰で無事に終えることができました。そしてお褒めの言葉をいただきました。準備から当日まで色々大変でしたが、いい経験をさせて頂きました。どうもありがとうございました。　飯田　裕子

● 指揮を執る責任者の指示に従って調整される音、色、小道具の位置。舞台裏の人たちの真剣な仕事ぶりを目の当たりにした。そしてそれ以上のパワーを持って、運営に携わった会員、ボランティアの方々。公演終了後の観客、スタッフの笑顔が、何よりこのイベントの価値を物語っていたと思う。　石坂　泰子

● 何もかも初めての経験に戸惑いながらも、助産師一人一人の隠れざる力をフル回転し営業や協賛、広報活動に飛び回った成果が、3公演ほぼ満席の偉業を成し遂げたと思います。当日も会員の方々の協力が大きな力となり、約1,500人の県民の皆さまに朗読劇“ハッピーバースデー”の感動をお届けすることができました。そこここで漏れるすすり泣き、アンケートの熱い感動の記録、「良かったよ」「ありがとう」の反響の声に、大変だったご褒美を頂いた気がします。ご協力、本当にありがとうございました。

古澤　弘子

● 私達の小規模な職能団体でも大きなイベントが出来る会の力強さを実感しました。それは役員全員が一丸となり困難な面もスムースに一つ一つ乗り越え、助産師の底力を発揮出来たからです。更にイベントを盛り上げたもう一つの面は朗読劇ハッピーバースデーの内容だと思います。役員全員で横浜関内ホールで朗読劇を観て群馬の人にも一人でも多くの人に観て頂き家族の絆を考えて欲しい思いが強く有ったからです。　伊藤　とく

● 近所のコブシの花はもう散ろうとしています。毎年何気なく眺めていたコブシの花ですが、この花を見るたびに、私は「ハッピーバースデー」を思い出すことでしょう。そして、朗読劇の実行委員として心身共にハードだった数ヶ月間も思い出すと思います。先日、朗読劇関係の携帯メールを整理しました。送受信を合わせて293件のメールがありました。朗読劇が大成功に終わったのも会員の協力があってのことと再認識すると同時に、前橋支部の皆様に深く感謝したいと思います。　堤　富美江

● 当日、お弁当係としては、準備した昼食・夕食を運営に係る全ての人々に確実に手渡し、食して頂くことが責務でしたが、それぞれの居場所も違い、食べれる時間も異なり、現実には結構神経を使いました。余裕をもって用意した数のはずが、最終的には一つも残らない数で納められたことが幸いでした。ボランティアの方々が、わずかな休憩時間に地下の部屋で「このお弁当おいしい」と話がはずんで下さっていたのに、「そろそろ片づけますから」と腰をあげてもらったこともありました。大きなおにぎりもおいしかったですネ。　佐藤　孝子

● 会場係として関わって、飯田さんを中心にボランティアの方も協力的で、皆で結束できてよかったと思っています。又、役員以外の方とも久しぶりに会い元気そうで、嬉しくなりました。秋の関ブロでも、役員以外の方の協力が必要となりそうなので、会報を読まれている皆様の協力に期待したいと考えています。　阿部　惇子

● 当初、朗読劇を主催するということはどんなことか想像できませんでした。会長、実行委員長の下で、チケット販売、協賛のお願い、前準備、当日運営等を夢中でやってきました。観劇した何人かの方に「朗読劇が素晴らしかった」という言葉と共に、「助産師さんすごいですね」との言葉も頂きました。大変貴重な経験でした。ありがとうございました。

秋山三重子

● 今まで経験のない事業であり不安でした。しかし次々と変わる状況に対しても、それぞれのエネルギーを発揮し協力しあい準備を整えることができました。当日運営は各担当部門ごとに責任を果たし、楽しくできたかなと及第点です。また、会の活動実績が認められての受賞でしたが、今回の事業実施で多くの後援、協賛を得られ、助産師会の社会的信頼度の高いことを改めて感じました。　尾内　静代

● 実行委員として、市内の各小学校をまわり、高学年の生徒へのチラシ配りを行いましたが、実際に購入された方はおらず、多少ガッカリしました。友人の方にお願いしたところ何枚か購入していただきました。会場係でしたが、ボランティアの方々がよく動いてくれて助かりました。　富山　雅子

朗読劇「ハッピーバースデー」記念公演感想文（一部抜粋）

“生きる喜びと感動”を与えた朗読劇

参加者からいただいたどの感想文からも「さすがプロ！」と感動の文字でうめつくされ、質の高さに驚嘆の声が寄せられていました。上演中にはホールのあちこちからすすり泣く声が聞こえていましたが、声優さんの言葉の一言一言が言霊（ことだま）となって、心の奥深くに届けられたのだと思います。終了後、ホールから出てくるお顔はどなたも輝いてみえました。“生きる喜び”が注がれたのかもしれません。多くの人々の心にあたたかい息吹を吹きかけることができました。そしてうれしいことに、多くの参加者から「よくぞ群馬で開催してくれた。是非またお願いします」と主催した県助産師会への感謝の言葉と再びというアンコールの願いも添えられていました。

- **私の中**にも恥ずかしい気がしますが、しずよさんがいます。子供を大切に思いながらも自由にならないことを悲しいと思う気持ちがあるのです。はじめて親になった時の気持ち、自分の子供の頃の気持ちを思い出しながら、急がず、焦らず、子供と共に生きてゆくのが今の私の課題です。実は今不登校の子供を持っているので、色々悩んでいます。今日はあすかちゃんの言葉に感動させてもらいました。　４０代女性　主婦

- **心のヒダ**をゆさぶる劇でした。人の心は温かくなるとあたたかさがひろがるのですね。小さな心のとげもまわりの人に支えられてとけていくことがわかりました。命のつながりのとうとさ、声の表現者すてきでした。　４０代女性

- **小学生の時**からこの本を読んで、読むたびに泣いていたのでおぼえています。今回この朗読劇を見て、あすかちゃんの声のさけびがとても心にひびきました。最後の方はボロボロでした。私もあすかちゃんと同じような立場にいたことがありました。母親から無視されたり、なぐられたりして、幼稚園でいじめられてずっと泣いていたのをおぼえています。思い出すたびつらくて、いやでした。でも今回この劇を見てすごく元気になりました。　女子高校生

- **生まれて**こなければ良かった‼という言葉にショックを受けました。我が子もそう思った頃があったかもしれないと考えた時に涙がこぼれていました。我が子は小、中学時代に不登校があったのです。学校でのいじめでした。けど､この“あすか”でいてくれた我が子に感謝です。二人でこの世を去ろうとした頃、抱きしめた事をおぼえています。今では元気に今までの青春をとりもどすように高校生活を送っています。今日我が子はどんな思いで見て聞いていたことでしょう。生きていて良かったと思っていてくれる日々を送っていってほしいです。　４０代女性　看護師

- **自分も**昔、お母さんに「産まなきゃよかった」って言われたこともあるし、「一緒に死のうと考えた」とも言われたこともありました。今は家族でがんばっていますが、その頃を思い出しました。言葉にできませんが､すごかったです。ありがとうございました。　高校生女子

- **親にも**見せたいという気持ちでいっぱいになりました。ここまで涙が止まらなかったのも久しぶりです。新鮮で気持ちのいい涙を流すことができました。私も親の前では勉強をすることでしか存在価値を証明できず、寝室でポロポロと泣いて傷つき、自分の体を傷つけることで忘れようとしていました。しかし、これを見て、あすかの変わりように感動しました。私はこのことを一生忘れたくないです。私はこの朗読劇をみんなにも見せてあげたいです。小学６年生が大層な口をたたいてすみません。一生忘れません。　小学生女子

- **はじめの頃**から涙が止まりませんでした。朗読劇の迫力に圧倒されさらに感動しました。現在妊娠９ヶ月、来月出会える赤ちゃんが楽しみです。子育てに追われ、たいへんに感じた時、今日のことを思い出したいと思います。今日は本当に素敵な一日でした。　３０代女性　主婦

- **あすかちゃん**と同じ５年１組で、私たちの中でもいじめやけんかがおこるので、私もあすかちゃんみたいに勇気を出していじめがなくなるようにしたいと思いました。そして最後のハッピーバースデーの歌の時、泣きながら一緒に歌っていました。また、機会があれば見たいと思います。今日はとても楽しかったです。そして皆にもその思いを伝えて欲しいと思っています。ありがとう、あすかちゃん。　小学生女子

- **これから**誕生日は自分が「今年も生きてた」と実感する日にしようと思いました。もう死のうと考えるのはやめます。　１０代女性　高校生

- **生き方**を考える機会をいただき、ありがとうございます。「人はいつでもどこでも生まれ変われる」「人は変わるために学ぶ」とても良い言葉でした。　５０代男性

- **ずっと**リストカットを続けていて死にたかった時、出会った本が「ハッピーバースデー」でした。そういった本が今回の朗読劇で素晴らしいキャスト陣で演じられたことを大変嬉しく思います。内海さんの涙につられて、涙が思わずこぼれました。親子で来られて本当に良かったと思います。　中学生女子

- **泣いた**　だいたいが自分みたいに思えてきた。　小学生男子

県委託一般就業助産師再教育講習会

朗読劇「ハッピーバースデー」に寄せる思い

講師　原作者　吉冨多美先生

例年行っている県委託再教育講習会と日程的に重なってしまう事から、今回は朗読劇記念事業とジョイントしました。「ハッピーバースデー」の原作者である吉冨先生をお招きしてご講演をしていただきました。

一番懸念していたことは、記念事業とのタイムスケジュールでした。ご講演時間と夜の部の記念式典の受付100人以上の来賓やご招待者のお出迎えの時間が重なり、猫の手も借りたいほど一番手薄になっていました。

結果的には、吉冨先生が事情を察知し、予定より早めに終了にして下さり、何とかなりました。あわただしい中先生には大変失礼なことになってしまいました。機会が有りましたら是非改めてお話をお伺いしたいとの声も寄せられています。

再教育講習会は高崎支部が担当でした。仕事の内容は当日の受付、司会、講師の接待、会場の整備です。事前の準備は出席者の名簿作成とチラシ作りでした。会場は5階の会議室70人分の席を準備した。研修会受付開始頃より外は霙が降り寒い日になりましたが出席者はハッピーバースデーの原作者の講演を楽しみにして寒さなど気にならない様子でした。

他県の助産師や教員も参加くださり会場はほぼ満席でした。講演のテーマは朗読劇ハッピーバースデーによせるメッセージでした。先生は世界の中で日本の15歳の子どもがもっとも孤独感を感じて自己肯定感が低い子どもが多くいること。だから大人は今のままのあなたで大丈夫でいいというメッセージを発信しなければならないと強調しておられました。講演は予定時間の半分で終了し、その後に質疑応答で3人から発言をいただきました。先生の接待は予定時間と流れの時間をお話しして控えて頂きました。

雪が降る中を多くの人に参加していただきありがとうございました。皆さんのご協力により無事終了することができました。大変お世話様になりました。

久保田末知留、伊藤とく

再教育講習会に参加して

太田・館林支部　柴田克子

今回の講演では、先生が関わってこられたケースについて、また、それらを通して気づかれたこと、感じられたことを中心としたお話をうかがうことができた。

実際に先生が向き合ってこられた虐待やいじめの話には、とても胸が痛み、気づけば鼻をすすりながら聞いていた。そんな中から得た気づきとして問いかけられた一つが、「子どもに対し、否定的な言葉を使っていないか？子どもを叱るエネルギーを持って子どもの気持ちを聞いたことがあるのか？」先生も症例を通し、ご自身の子どもへの姿勢を省みたそうだ。先生から伝えられたように、親子で同じ時間を共有する、子どもとしっかり向き合って話をする、そういった積み重ねが大切と思った。そして子どもたちに、「自分のことをわかろうとする人がいる。」と感じてもらいたいと思った。

また、特に印象に残ったのは、いじめについてのこと。「弱いからいじめにあうのではない。（強い子であっても）いじめにあって弱くなる。」胸に刺さる言葉だった。弱さを責めないこと—。いじめに限らず、私たち大人は、「強くなれ！」と安易に言って、子どもを追い詰めてしまいがちである。それは、子どもを受け止める言葉ではなく、突き放す言葉だと反省した。

では、実際に身近でいじめがあったとき、なにができるのか？いじめは、された子だけでなく、まわりにいる子も傷つける。あなたがやった、あの子がやったと責めるのでなく、皆が共有できる媒体を使うと良いとのことだった。たとえば、クラスの皆でハッピーバースデーを読みあう。たとえば、今回助産師会で開催したような朗読劇などに、親子で参加する。そういったことで、気づきを持てることが第一歩になる、と。今回のようなイベントは特別なものでいつでも身近に出会うことはできないかもしれませんが、まさに群馬県助産師会の「いのちを育む講座」は、助産師の専門性を生かした身近に使える媒体として、役割を担うことができると思う。「私たちにもできることがある」と、思いを新たにした。今回の講習会は、スケジュールの都合で講演時間が短くなったことは大変残念であったが、助産師として、またひとりの母として、自らの在り方を見つめ直すよい機会となった。

【上毛新聞　平成●年●月●日 掲載】

設立50年で県助産師会

命と家族 問い直す

2月に朗読劇「ハッピーバースデー」

内海さんら多彩な声優 原作者のトークも

朗読劇「ハッピーバースデー」のワンシーン
（写真提供・神奈川子ども未来ファンド）

多くの声優が出演し、家族の在り方を問う話題の朗読劇「ハッピーバースデー」が来年2月13日、県助産師会（鈴木せい子会長）設立50周年と、同会の「こころを育む総合フォーラム全国大賞」（事務局・パナソニック教育財団）、「保健文化賞」（第一生命主催）受賞記念の事業として前橋市のベイシア文化ホール（県民会館）で開かれる。

母子を対象にした助産師出前講座などへの取り組みが評価され受賞した二つの賞の副賞計300万円を、社会に還元しようと企画した。

「ハッピーバースデー」は、母から「生まなきゃよかった」と疎まれ、声を失った少女あすかを主人公に、自分の弱さと向き合い、命や家族の意味を問い掛ける物語。原作は青木和雄さんと吉富多美さんの共著。「大人の課題図書」といわれベストセラーになった。

2007年に横浜市で初演され、これまでに同市と相模原市で公演されている。出演者は声優の内海賢二さんや野村道子さん、斎賀みつきさんらで、多くの声優が参加。舞台制作費など費用がかかることから、他県での開催はなかった。

今回、命の大切さを伝えてきた同会の思いと、家族がともに生きるきずなを取り戻そうという朗読劇のメッセージが重なり、初の「県外公演」が実現。当日は原作者によるミニトークも予定されている。

鈴木会長は「公演を主催することに喜びと幸せを感じる。命と家族を問い直すストーリー、声優の迫力ある言葉の響きには心揺り動かされた。一人でも多くの県民の方に感動を味わってほしい」と話し、賛同者には協賛などでの協力も呼び掛けている。

公演は午後2時と同6時から。チケットは2500円（小中高生は1500円）。託児での鑑賞、親子・妊婦カップルの無料招待の応募も受け付けている。問い合わせは同会（☎027・6・37・5198）へ。

【毎日新聞　平成 21 年 12 月 16 日 掲載】

二つの受賞で300万円得た県助産師会

朗読劇で社会に還元

来年2月 前橋で 声優・野村さんら出演

「多くの人に来てほしい」と話す声優の野村さん（中央）、県助産師会の鈴木会長（右）ら

県助産師会（鈴木せい子会長、太田市）は15日、前橋市のベイシア文化ホールで来年2月13日、声優による朗読劇「ハッピーバースデー」（毎日新聞前橋支局など後援）を開くと発表した。同会は今年受賞した二つの賞で副賞300万円を得ており、命の尊さを伝える事業を行うことで、社会に還元することにした。不足分は企業に協賛を募るなどして賄う。【宍戸護】

同会は、県内の助産師約350人のうち、フリー中心の約130人で組織している。いのちの大切さを伝える出前講座」などが評価され、3月に「こころを育む総合フォーラム」の全国大賞（副賞100万円）に、8月に保健文化賞（同200万円）に、それぞれ輝いた。

同会では「会員会より、社会に役立つことを」との声が上がり、鈴木さんが適当な事業を探していたところ、インターネットで朗読劇「ハッピーバースデー」を見つけた。母親に愛してもらえず誕生日も忘れ去られた小5の女の子が、ショックのあまり声を失ってから、預けられた祖父母とのふれあいの中で「命」の意味を学び成長していくストーリーに感銘。県内開催を頼んだところ、声優の所属事務所から快諾を得た。

舞台では、照明を落とした舞台にマイクを並べ、声優がスポットライトを浴びながら朗読する。一昨年11月の初舞台からこれまで3回上演され、いずれも好評だった。実際の劇を11月に桐生市で見た鈴木さんは「どの子も生まれてきたからには幸せになってほしいとの思いは、私たちの仕事と一緒だった」と話す。

出演者の一人で、アニメ番組「サザエさん」のワカメちゃん役、「ドラえもん」のしずかちゃん役などを務めた声優の野村道子さん（71）は15日、県庁で会見し「命の大切さを扱っている作品で、ぜひ多くの人にみてほしい」と話した。

当日は、ハッピーバースデー原作者の青木和雄さん、吉富多美さんのミニトークショーも予定している。

親子ら50組招待

開催経費約300万円のうち、300万円は同会が負担、100万円は企業に協賛を募り、残りはチケット代でまかなう計画だ。大人2500円、小学生以上1500円。親子・妊婦ら50組100人を抽選で招待する。12月末締め切り。問い合わせは同会事務所（027・6・37・5198）へ。

【毎日新聞　平成 22 年 2 月 14 日 掲載】

県助産師会が朗読劇

前橋 満員の観客聴き入る

朗読劇「ハッピーバースデー」の1場面
＝前橋市日吉町1のベイシア文化ホール

県助産師会（鈴木せい子会長）が主催する朗読劇「ハッピーバースデー」が13日、前橋市日吉町のベイシア文化ホールで開かれた。3回の公演がすべて満席となり、約1500人が声優たちの熱演に聴き入った。

県助産師会は、09年に「こころを育む総合フォーラム」の全国大賞などを受賞した際の賞金で、「いのちは自然の恵み」と訴える、ハッピーバースデー」の開催を決めた。

この日の舞台には、アニメ番組「サザエさん」のワカメちゃん役や「ドラえもん」のしずかちゃん役などを務めた野村道子さんら、豪華な顔ぶれの声優陣が集まった。

「ハッピーバースデー」は、母親に愛してもらえず、声がでなくなった小学校6年生の女の子が、祖父母とともに過ごす中で声と明るさを取り戻す物語。原作者の吉富多美さんは「母親なら誰でも思い当たるふしがあるはず。それをみんなで共有し合って子育てをしていけたら。生まれてきて良かったと思う子が一人でも増えてほしい」と話した。

公演後、高崎市中居町の主婦、夢沼里枝さん（38）は「感動した。主人公の女の子が苦しんでいるときに、おじいちゃんがそっと寄り添う場面が特に心に残った」と話した。【宝田彩】